



9月16日

北国街道野々市の市で
足湯を楽しむ栗市長

平成30年10月5日

週末ごとの台風の訪問で、本市では直接の大きな被害はありませんが、行事や催しが中止になるなど、予定が大幅に変わることばかりです。1月、2月の豪雪に始まり、各地での地震や豪雨、大型台風と自然災害の多さを実感させられます。

大型台風の接近のたびに、いち早く庁舎内で「対策会議」を開き、自主避難所の開設や公共施設の管理、「のっティ」の運行など、関係する部署の連絡調整をしております。これも今年の「30豪雪」での教訓が活かされ、今、まず何に対してどうすればいいのか、ということを考えることで迅速な対応ができます。幸いなことに野々市は被害の少ない地域ですが、この状況を当たり前と感じるのが一番怖いと思います。恵まれたところだからこそ、備えはしっかりとしておかなければなりません。

最近では自然災害について報道機関からもかなりの情報があり、注意喚起をしていますので、それを受けて公共の施設だけでなく、民間でも早めに仕事を切り上げたりするなどの手立てをとられています。このようなことも、大きな混乱を避けることができ、自分たちでできる取り組みを進められることが災害に向き合う心強さにつながっているのではないかと思います。

台風24号が上陸する直前の9月29日、大阪で「ふるさと交流会 in 大阪」が開催されました。心配する天候でしたが、60名近くの皆さんにご参加いただきました。野々市と災害時相互応援協定を結んでいる京都府の奥田城陽市長にもお越しいただき、このような交流をすることで、さらに両市の結びつきを強める確認もできました。

関西圏で初めて開催する「ふるさと交流会」なので、当然初めてお会いする方も多いのですが、関西の皆さんはとても明るく、すぐに打ち解けて、とても楽しい交流ができました。野々市の地場の食材を使った料理や、観光物産協会の皆さんがいろいろな物品を持ってこられ、とても和やかな雰囲気になりました。

ふるさとの発展をこのように喜んでいただけるのかと思うと、その期待にも応えるようなまちづくりをさらに進めていかなければと、改めて感じ入りました。

すでにご存知かと思いますが、現在、整備中の地域中心交流拠点施設の施設名称、愛称が決まりました。

「にぎわいの里のいち カミーノ」です。151点の応募をいただき、それを選考委員会で候補をしぼった中から決定させていただきました。

「カミーノ」はスペイン語で「道」とか「街道」を示すそうです。地域中心交流拠点施設の周辺は、旧北国街道や白山大道があり、交通の要衝として栄えていた場所でもあります。この地で育んできた歴史や文化が込められた言葉でもあり、また、これからの新しい道を切り拓くという期待と希望に満ち溢れた命名になったと思っております。

日一日と建設が進み、来年4月にはオープンとなる「にぎわいの里のいち カミーノ」、多くの皆さんにご利用いただき、新しい活動の舞台となることを願っております。